

2024年3月期 第1四半期決算概要

- 前年同期比で増収増益。原材料やその他コスト増加の影響を販売価格改善および販売数量改善で吸収、ロシアのジョイント・ベンチャーの売却に伴う過去の減損損失の戻入益計上もあり順調なスタート
- 上期および通期業績予想を上方修正。円安および当初想定を上回る第1四半期実績を勘案
- 中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく「3つの改革」と「2つの重点施策」が順調に進捗、RP24 最終年として引き続き「財務基盤の回復」を推進。自己資本比率は12%超まで回復

1. 2024年3月期 第1四半期決算

- 売上高は2,080億円（前年同期比+300億円、+16.9%）、営業利益は146億円（同+63億円、+76.4%）と、増収増益。売上高は全事業で増収、営業利益は建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業で改善。原材料および運送費、人件費等その他コスト上昇の影響は販売価格の改善と販売数量の増加により吸収し、営業利益率は7%まで改善
- 金利上昇に伴い金融費用が64億円に増加する一方、ジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社の売却に伴い金融債権の減損損失の戻入益37億円と、投資に対する減損損失の戻入益12億円を計上。純利益*は70億円（前年同期比+46億円、約3.0倍）と順調なスタート
- 自己資本比率は12.4%（前期末比+2.2pt）に回復

<損益計算書および財務指標>

(億円)	4-6月期（3か月）		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	1,779	2,080	300
営業利益	83	146	63
営業利益率	4.6%	7.0%	+2.4pt
個別開示項目（純額）	23	△ 8	△ 31
個別開示項目後営業利益	106	138	32
金融費用（純額）	△ 28	△ 64	△ 36
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	37	37
持分法による投資損益	22	10	△ 13
持分法投資に関する その他の利益（△損失）	△ 12	11	24
税引前利益	88	133	45
当期利益	33	75	43
純利益 *	24	70	46
EBITDA	180	253	73
フリー・キャッシュ・フロー	△ 129	△ 316	△ 187

*親会社の所有者に帰属する当期利益

(億円)	2023年 3月末	2023年 6月末	増減
総資産	9,514	10,000	486
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,245	274
自己資本比率	10.2%	12.4%	+2.2pt

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	多くの地域で堅調な需要が継続し増収。 原材料およびその他コスト上昇の影響を受けるが、販売価格および数量改善により吸収し、増益を継続。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調継続
自動車用ガラス事業	全地域で増収増益。自動車生産制約の緩和に伴い、販売数量が増加。原材料およびその他コスト上昇の影響を緩和するための価格改善交渉も引き続き進展
高機能ガラス事業	売上高は横ばいだが、原燃材料およびその他コスト上昇および売上構成の悪化により減益

(億円)	4-6月期		
	2023年3月期	2024年3月期	増減
売上高			
建築用ガラス事業	856	958	101
自動車用ガラス事業	816	1,009	193
高機能ガラス事業	99	100	0
その他	8	13	5
売上高合計	1,779	2,080	300
営業利益			
建築用ガラス事業	89	119	30
自動車用ガラス事業	△ 7	32	39
高機能ガラス事業	32	21	△ 11
その他	△ 31	△ 27	5
営業利益合計	83	146	63

2. 2024年3月期 業績予想

- 当初想定より円安および第1四半期の実績を踏まえ、上期および通期業績予想を上方修正
- 当社グループのジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社売却に伴う過去の減損損失の戻入益を計上
- エネルギー価格の落ち着きを想定するが、インフレ拡大等でのコスト増加、および金利上昇に伴う潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明。金融費用も増加を見込む
- RP24の最終年にあたり、引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力

<業績予想>

(億円)	2024年3月期 予想 (前回)		2024年3月期 予想 (今回)		増減		2023年3月期 通期実績 (参考)
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	
売上高	3,700	7,600	4,200	8,400	500	800	7,635
営業利益	140	300	190	350	50	50	348
個別開示項目(純額)	10	10	0	0	△ 10	△ 10	△ 452
個別開示項目後営業利益 (△損失)	150	310	190	350	40	40	△ 103
金融費用(純額)	△ 110	△ 220	△ 130	△ 260	△ 20	△ 40	△ 174
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	40	40	40	40	-
持分法による投資利益	30	70	20	60	0	0	73
持分法投資に関する その他の利益(△損失)			10	10			△ 15
税引前利益(△損失)			130	200	60	40	△ 219
当期利益(△損失)	40	90	90	130	50	40	△ 310
純利益(△損失)*	30	70	80	110	50	40	△ 338

*親会社の所有者に帰属する当期利益

3. リバイバル計画 24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

3つの改革

● コスト構造改革

- ・ 営業利益率改善を目指し引き続きコスト削減を継続

● 事業構造改革

- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- ・ マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設が順調に進捗（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの生産能力拡大に向けて検討中
- ・ 英国でガラス生産ラインを統合し、1窯でフロート板ガラスおよび型板ガラスを生産可能に



型板ガラス生産ライン移設先のグリーンゲート事業所（英国）

● 企業風土改革

- ・ 4月1日より新CEOが就任、4つの「F」（Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定+職場におけるFun）をモットーに企業風土改革の推進を加速、トップ自らが率先し「リーダーシップ行動憲章」を体现



4つの「F」についてタウンホールミーティングで話す新CEOの細沼

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告 RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進

2つの重点施策

● 財務基盤の回復

- ・ 営業利益率：原材料費高騰の下、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により7%に改善
- ・ 純利益：好調な業績およびジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、Q1時点で70億円となる
- ・ 自己資本比率：前期末より2.2pt改善し12.4%と目標数値である10%を上回る
- ・ FCF：季節的な運転資本増加を除くとプラス、通期での目標数値である100億円以上達成を目指す

● 高収益事業へのポートフォリオ転換

- ・ ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却を完了

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告 RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

<お問い合わせ> 広報部 Tel : 03-5443-0100